



1990年12月1日、釜ヶ崎の労働者たちが集った様子。

協友会のめざすもの(二十年をむかえて)

今年の秋は、協友会結成二十周年ということで、記念の集いがもたれた。結成のときから、かかわってきた者として、当時のことを記したい。

私のところに「社会福祉法人協友会定款」と「申し合せ」なる、虫くいだらけの野紙に署名捺印した、いささか歴史を感じさせる資料がある。署名者は暁光会谷安郎、いこいの家金井愛明、ふるさとの家S・ハイリソッピ、愛徳姉妹会小崎通代、家庭保育の家E・ストロームの五人の名前があり、一九七〇年十二月一日の日付けである。

発足が十一月であったので一ヶ月たらずの短い期間に、議論を重ねて成文化している。目的は、釜ヶ崎における伝道、教育、社会、労働問題を協力しておこなう次の三つのグループが考えられていた。

- A. 労働者の教育、健康管理、相談事業を推進するとして、(1)食堂 (2)診療 (3)宿泊 (4)一時無料宿泊 (5)いこいの場の提供
- B. 地域内のこどもの保護 育成指導として、(1)学習教室 (2)家庭教室 (3)野外活動 (4)レクリエーション (5)スポーツ
- C. 老人、病人の救援とカウンセリングのためとして、(1)病院訪問 (2)少年院訪問 (3)老人ホーム訪問と老人クラブ結成などである。

寒い冬の日、行く先を知らないで五人のキリスト者が、釜ヶ崎で、キリスト教のためにではなく、労働者と共に生き、働き、奉仕をしたとの一念で、祈りをもって立案した、この計画は、二十年という年月の経過の中で、労働者の支援、教会の協力などで、大きく前進することが出来た。私の個人的なこととしては、労働者伝道の視点ではじめから労働運動にこだわりのついでに、エキメニカルな面では、お互いに、組織が異なり、伝統も、社会的認識もちがうので、それを大切にしながら、何で一致するかを求めて来た、この二の点は協友会がこれから次の十年をめぐらしていかうで大切な点であるとおもっている。一致と協力は今日の課題である。 金井愛明

一九九〇年十月二日

一九九〇年十月二日より六日までの五日間、釜ヶ崎一帯は騒然とした。十八年ぶりの大きな抗議行動である。十月二日の朝刊は一面に西成警察巡査長が西成の暴力団組長から金銭を受取っていたことを報道した。その日は朝から労働者が個々に警察の前に行つては抗議の声をあげていた。釜ヶ崎の労働者は手配師、手帳やミニ金融、街頭トバクにノミ行為とあらゆる面で暴力団に痛めつけられ、金銭をむしり取られている。暴力団を取締る筈の警察が暴力団と癒着

人を人として！今年も協友会の活動にご支援を。

協友会通信19

1990年12月

釜ヶ崎キリスト教協友会

代表 中島文雄

連絡先

大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
 旅路の里気付
 釜ヶ崎キリスト教協友会
 TEL 06-641-7183
 FAX 06-634-2129

カンパ送り先

振替番号
 大阪6-305599
 釜ヶ崎キリスト教協友会

していたのだから労働者が怒るのは当たり前である。怒りは夕方から抗議行動となって爆発した。石や空きビンを投げる者もでてきた。遂に機動隊が装甲車と共に出動し、放水、逮捕を繰返す闘いとなった。

労働者の抗議行動は激しくなり、破壊行動も伴うようになった。このことは決して全面的に支持できるものではないが、単なる「暴動」として治安対策上の問題としてのみ考えるわけにはいかない。

確かに怒りは第一に西成警察署と大阪府警に向けられていた。西成署の労働者に対する蔑視はひどいものがある。一人一人の警察官の労働者に対する対応も人間に対する行為ではない。路上強盗に襲われ、警察に訴えても粗暴な態度で追い返される。路上で倒れていてもパトロールの警官は見向きもせず、しかも、方で街頭トバクは堂々と行われている。「暴動」の最中でも街頭トバクは行われていたのである。そして街角に幾つも設置されている監視カメラ。釜ヶ崎労働者や住民があたかも犯罪予備軍かの如くみられている。これらを背景にした怒りが一度に爆発したのである。

しかしよく観察するならば、この怒りは単に警察に向けられたものだけではなく、今ある行政の「釜ヶ崎体制」への不満が爆発したものであるということが出来る。「市立更生相談所」「あいりん職安」「西成労働福祉センター」「医療センター」が府と市の「あいりん対策」として存在しているが、一向に問題は解決せず、どこに問題をもっているのかわからず、行政に任せられたのである。

十月二日の労働者の抗議行動の発生後、実に多くの報道関係者が釜ヶ崎にやってきました。TV、放送、新聞、雑誌、ふだんには訪れないのに、ひとたび事件が起れば押し掛け、警察情報を中心にして、写真を撮り、コメントを求めて走り廻る。しかも十月七日、力によって「暴動」が押えつけられ、みかけの平穏がもどると、問題は解決していないの。その後の様子は見に来ようとしてもいい。

報道に関して幾つかに気がなることがあった。第一は初めは「労働者の怒りの抗議行動」と報道されていたのが、いつの間にか「暴徒」という言葉にすり変えられた。確かに破壊行為には目に余るものもあり、無差別な事物破壊はよいとは言えない。破壊行動をした人々の中に、多数で多様な若者が登場したのは事実である。だがそれによつて労働者の怒りの質が変わってしまったのではない。怒るものには怒る理由がある。場合によっては怒らなくてもいい。従つて青少年が参加したのとは今回の特徴であった。多くの青少年の参加は単なる好奇心でも弥次馬的なものでもない。彼らも権力を持つものが威張るだけで自分の責任を果

報道の姿勢を問う

十月二日の労働者の抗議行動の発生後、実に多くの報道関係者が釜ヶ崎にやってきました。TV、放送、新聞、雑誌、ふだんには訪れないのに、ひとたび事件が起れば押し掛け、警察情報を中心にして、写真を撮り、コメントを求めて走り廻る。しかも十月七日、力によって「暴動」が押えつけられ、みかけの平穏がもどると、問題は解決していないの。その後の様子は見に来ようとしてもいい。

報道に関して幾つかに気がなることがあった。第一は初めは「労働者の怒りの抗議行動」と報道されていたのが、いつの間にか「暴徒」という言葉にすり変えられた。確かに破壊行為には目に余るものもあり、無差別な事物破壊はよいとは言えない。破壊行動をした人々の中に、多数で多様な若者が登場したのは事実である。だがそれによつて労働者の怒りの質が変わってしまったのではない。怒るものには怒る理由がある。場合によっては怒らなくてもいい。従つて青少年が参加したのとは今回の特徴であった。多くの青少年の参加は単なる好奇心でも弥次馬的なものでもない。彼らも権力を持つものが威張るだけで自分の責任を果

していたのだから労働者が怒るのは当たり前である。怒りは夕方から抗議行動となって爆発した。石や空きビンを投げる者もでてきた。遂に機動隊が装甲車と共に出動し、放水、逮捕を繰返す闘いとなった。

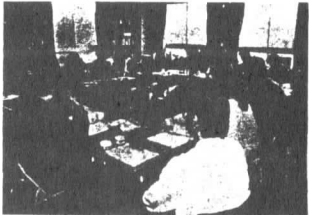
労働者の抗議行動は激しくなり、破壊行動も伴うようになった。このことは決して全面的に支持できるものではないが、単なる「暴動」として治安対策上の問題としてのみ考えるわけにはいかない。

確かに怒りは第一に西成警察署と大阪府警に向けられていた。西成署の労働者に対する蔑視はひどいものがある。一人一人の警察官の労働者に対する対応も人間に対する行為ではない。路上強盗に襲われ、警察に訴えても粗暴な態度で追い返される。路上で倒れていてもパトロールの警官は見向きもせず、しかも、方で街頭トバクは堂々と行われている。「暴動」の最中でも街頭トバクは行われていたのである。そして街角に幾つも設置されている監視カメラ。釜ヶ崎労働者や住民があたかも犯罪予備軍かの如くみられている。これらを背景にした怒りが一度に爆発したのである。

第16回釜ヶ崎越冬セミナー報告

近年越冬セミナーは、開催期間の4日間に釜ヶ崎の姿や越冬プログラムの様子にできるだけ幅広く触れられるようにと企画されてきました。参加者たちが、スケジューリングに振り廻されたり、机の上でのレクチャーばかりに終わるのでもなく、自分の関心や自分の体力に合わせて、過剰なことが出来、それを通してそれぞれなりの出会いと体験が引き起こされれば、十分に意味のあることだと思います。

今年の参加者16名も、それぞれに異なった印象を抱いて、釜ヶ崎にやってきました。銀座通りに足を踏み入れたとたんに足がすくんでしまった」と率直に語っていた参加者も居れば、美味しい店を既に熟知している参加者もいました。セミナーの期間中、一方で「機動隊員の人数」「アオカン労働者の人数」「炊き出し」に並ぶ労働者の人数に驚き、とまどいを見せながらも、他方では、それ故に「人民パトロール」「医療パトロール」「炊き出し」といった諸活動の必要性に、参加者たちは気づかされていったようです。



越冬セミナーで体験を交流する参加者

釜ヶ崎だけでなく、四天王寺の境内の中にもアオカン労働者を多数目撃しつつ、他方梅田の地下街でスキートの板を小脇にかかえた多勢の若者たちの姿に改めて出会いました。その狭間で複雑な心算を訴える参加者も居ました。「釜ヶ崎暴動」の報道番組を見ていた時とは違った視点で釜ヶ崎を見始めている。そんな自分を改めて発見したと語る参加者も居ました。「釜ヶ崎に来ても、これ程冬のことを言っているのじやなく」との感想を表した参加者の言葉が語るように、参加者一人一人の中にそれまで想像出来なかった厳しさや生きている上での過酷な状況が迫り、その社会を構成している自分自身への問い掛けが、ひっきりなしに引き起こされたことでしょうか。今回、このセミナーのために発題を引き受けて下さった平井正治さん、小柳伸顕さんに感謝します。平井さんは、セミナーの冒頭の時間で解き明かして下さりましたし、セミナリ博覧会との絡みの中で解き明かして下さりました。置かれていた状況の中で、それをね返して来た労働者たちの主目的運動の意義を教えてくださいました。又、小柳さんは、釜ヶ崎では、医療の問題が、単に医療面だけの接触だけでは決して解決しないことを、丁寧に語って下さいました。釜ヶ崎が抱えている課題が多岐に渡っている故に、諸機関、諸施設、諸活動のねばり強い連携が将来に渡っても必要とされていることを実感することが出来ました。

人を人として！今年も協友会の活動にご支援を。

その他、開会・閉会礼拝で話して下さった諸氏、又、快く会場を提供して下さい下さった諸施設に感謝しています。今度も、自分自身の日常の場で生活を始めています。セミナー参加者たちが、この冬の出会いを胸にしつつ、それを活かしていくための模索を始めて下さっていることと信じ心から声援を送りつつ、第16回越冬セミナーの報告にかえさせて戴きます。

協友会20周年記念集会へのメッセージ

結成20年おめでとうございます。釜ヶ崎の地域に根をどっしりおろして歩まれた釜ヶ崎キリスト教協友会。いつも活気に満ち常に、どんなことがあってもエネルギーと若さ(20年経っても若者いよう)、微笑みをたやまず、寿に在る一人として、横目で皆さんをいつも感じさせていました。ますます、協友会がにぎわいますように、又、共に寄せ場に生きる者として連帯していきたいと思っております。

20年間の働きに、敬意を表します。協友会の働きは、釜ヶ崎労働者のみならず、間接的であるにせよ、他の寄せ場の労働者をも支えてきたと云えます。寄せ場への関心は、以前に比べふえてきていますが、状況は悪化していると思えます。問われることの多い中で今後とも大いなる働きのために、お互いに刺激し合う関係をめざしたいと思います。

大坂 松田 多枝子

私がボランティアであることの家に帰って来た(十年前)を思い出しています。路上の男の人を見ると、出稼ぎに出たかもしない父の姿に重なり、他人事とは思えません。釜ヶ崎はここだけの問題ではなく、日本社会全体のウミのように見えます。協友会が発展的になくなる日が一日も早く来ることを祈っています。

熊本 小松 裕

協友会発足して20年間の間にいろいろな出来事がありましたね。先日の出来事にも激しい憤りを感じました。何も出来ませんが思いを同じくし、出来る範囲で協力していきたいと思えます。

又ウエール愛徳修道会 九条修道院

一 カンパ目標 一千七百万円 二 毛布、食糧等の物資援助

- ① 毛布、石鹸、越冬期間中、沢山の毛布が必要です。
- ② 食料品、米、調味料、食用油、乾物、カンヅメ、肉、野菜、ラーメン

送り先 〒557 大阪市西成区北津守四一四四四
聖光会気付 釜ヶ崎キリスト教協友会

今年も越冬夜回りをします。

ほとんどのグループは、夜回り出発する前に学習会を開いています。参加者の多くはそこで夜回りだけでは釜ヶ崎の問題が解決されない事を知らせれるのと同時に、問題ひとつひとつが自分とどう関りがあるかを考えさせられます。

釜ヶ崎での医療の様々な不平等や不正、福祉行政の切り捨てる的対応は、労働者を夜宿へ追いやり、結果として毎年100人以上の人が路上死を余儀なくさせられています。運良く病院や施設に入れても、ひとりの人格ある人間としてでなく、儲けの対象としてのモノのように扱われ、深く心を傷つけられた人がたくさんいます。

そういった釜ヶ崎の問題を自分の問題としてとらえ、どのように変えていくかを考える意味でも学習会の参加は大切です。単に夜回りのみの参加ではなく、かならず学習会に参加し、夜回りをせざるを得ない自分たちの「社会」の問題について考えてほしいものです。

夜回りなどいろいろな「社会」めざし、共に連帯をふかめてゆくため、どうかこの活動にご参加下さい。

越冬活動日程(予定)

- 1月11日～2月末日 夜回り
- 3月17日(日) まとめとこれからの集い
- 喜望の家 P.M.2:00～

釜ヶ崎キリスト教協友会、夜回り予定表 (1月11日～2月末日)

曜日	集合場所	時間(PM)	電話番号
月	ふるさとの家	集合 9:00	06(641)8273
水	暁光会 *自転車中を回る	集合 10:00	06(562)0086
木	旅路の里	集合 9:00	06(641)7183
金	喜望の家	集合 10:00	06(632)1310
土	こどもの里	集合 8:30	06(645)7751



釜ヶ崎の冬闘争の現場 (医療センター前)

第21回越冬闘争を引き継いで



第21回越冬闘争の立憲旗 (医療センター前)

一月十一日、夜のパトロー
ルは、協友会にパトナックッ
されました。その朝、第21回
越冬闘争の拠点だった大阪社
会医療センター前は、午前四
時からみんな忙しそうでした。
何時ものように前夜敷かれ
た70人分のふとんは、飯のふ
とん小屋に仕舞わずに、処分
するために山たかく積まれま
す。風よけのために張られた
テントシートもはずされます。
その作業の手際よさは、さ
すが日頃の労働で鍛えあげて
いるなと思わずにはおられません。そのうちに「日刊いっつと
う」最終号の第18号が刷りあがって来ます。

一方では、全国からよせられた衣類を労働者に無料提供
するための準備も始まります。少しはなれた炊事班の台所
では、最後の医療班への弁当づくりと、夕方の「ご苦労さ
ん会」にむけての準備がはじまります。十二月二十五日か
ら、連日、真夜中、医療センター前と三角公園(12月29日
〜1月3日)で、労働者の生命を守るために夜警の任にあ
たった来た人々の顔に安堵の色がみえます。労働者の一人
が、ふともしたものです。「何せ、100人からの生命を守
るんだから手薄のときは気つかうよ。この一言を聞きながら
ら、ほんとうに「ご苦労さん」と心の中で言ったものです。
100人あるときは200人の労働者の生命を守るには、それこそ
私たちの目につかない所での努力があつて、はじめて可能
なのです。

'90〜'91年にかけて、仕事があり、暖冬だったことも手伝
って比較的野宿する労働者は少ないと言われます。でも大
阪市が越年対策で、約九〇〇名の労働者を無料宿泊所に入
れた(12月29日〜1月6日)とは言え、この間もふくめ、越冬
闘争実行委員会は、実に延四千二百人の野宿する労働者に
あるいは声をかけ、あるいは仮眠してもらおう努力をしまし
た。とくに十二月二十九日〜一月三日までは、夜の九時ある
いは早朝に炊事班が炊き出しをしました。一月二日には餅
つきをして、雑煮やしるこを提供し、共に正月気分を味わ
いました。しかし、残念なことには、この期間中に、七名の
労働者の行路死という悲しい出来事も経験しなければなら
ませんでした。とにかく、一月四日には、野宿する労働者
や行路死を迎える労働者に対しては、大阪市(民生・福祉)
や大府路(労働)に責任があるとして、抗議行動を行いました。
昨年十月の暴動もその原因をつきつめれば決して警官の
賄賂事件にあるのではなく、冬に代表されるような労働者
の人権無視に根ざしているのです。しかし、行政は、なか
なかその点を自覚していないようです。その証拠に、この

人を人として！ 今年も協友会の活動にご支援を。

協友会通信 20 1991年 2月 釜ヶ崎キリスト教 協友会

代表 中島文雄

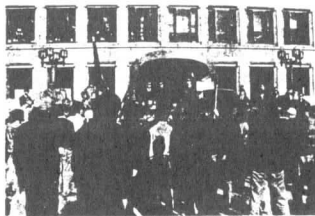
連絡先

大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎キリスト教協友会
TEL 06-641-7183
FAX 06-634-2129

カンパ送り先

振替番号
大阪6-305599
釜ヶ崎キリスト教協友会

越冬期も昨年同様、大勢の機動隊や私服警官を繰り出し、
生命を守るたたいや行政への抗議を弾圧することに懸命
でした。その姿は、まさに振り向きまわすです。一月二日
は、その行動に参加する女性たちに性差別発言を警官がく
り返し、行動を弾圧するとの事件も起きました。
しかし、楽しいことも沢山ありました。とくに一月一日
から三日にかけての越冬まつりでは、のど自慢大会、東京
からかけつけてくれたバンドの仲間たちの演奏、二日の餅
つき大会、三日には、恒例のソフトボール大会を郊外のグ
ランドを借りて寒風の中やりました。あるいは抗議行動の
あとは、三角公園で炊事班が用意する温い雑炊で体をあた
ためるといふこともありました。ここでは、野宿する労働
者、元気な労働者、支援に来た市民、学生が一体感を深め
ることが出来ました。赤々と燃える焚き火を囲んでの越冬
は、いま、日本社会では失われてしまった人々の連帯感を甦
えらさげます。支援に馳つけた人々の口からは、「はげま
しに来たのに、反対に労働者から元気をもらった」と感謝の
声が聞かれました。また医療班の活動など入院でそなえて
いる人々に出会うのも嬉しいことの一つです。行政とは別
にこのような労働者相互の助け合いが深まるのもこの越冬
期の特色です。この力を春からの労働運動の中に生かすこ
ともまた、この越冬闘争の課題の一つです。



1月4日 対大阪府抗議(前面に警察がでる)

わたしたち協友会メンバー
も、越冬闘争にもそれぞれが
参加し、微力ながら働きました
が、その日は沢山のことを学
び、十一日から始めた活動に
生かそうと考えています。中
でも今回第16回を迎えた「越
冬ゼミ」には全国各地から参
加者を迎え、越冬闘争実行委
員会の協力と助力により事
終えました(この点は次項参
照)。この活動を通し、少しでも
マスコミによる釜ヶ崎像が修
正されることを願っています。
とくに十月暴動のマスコミ報道は、日本社会に誤った釜ヶ崎
像を送り込みました。その後、いくつかのマスコミが、もう
少し深めた釜ヶ崎を伝えようと釜ヶ崎に足を運んでいます。
どうか、みなさんもまた関心をよせ、報道に関するご意
見をぜひお寄せください。

協友会は、この労働者の活動を引き継ぎ、規模は大変小
さいですが、三月上旬まで夜まわりを中心とした越冬活動
を続けていきたいと願っています。どうか、この点をおほ
え、物心共に変わらぬご支援をお願いする次第です。
越冬期全体の活動は、協友会通信21「釜ヶ崎一九九〇年
冬」でお知らせします。

さず不正をなし、人々を裏切っているから怒っていたのである。警察官は若者に対して常に居丈高である。しかし報道はこうした若者の怒りを分析もしなかつたし、伝えようともしなかつた。たゞ外から多くの無責任な青少年が参加したので「暴動」は「無法化」されてしまったと伝えただけである。

「無法化」という表現も誤解を招くことばであった。抗議行動が激しくなり、阪堺線の霞町の駅が燃えたととき新聞は「無法化された労働者の街」と書きたてた。しかし破壊行動が破滅された一部であることを、多くの労働者は自分たちの街を守っていないのは労働者ではない、暴力団でありそれを許している警察である。街に十六個もある警察の監視カメラは人権擁護の立場からみて完全に憲法違反である。府や市の行政も団体交渉が行われる度に口約束はするが守ったことはない。法を守り人権を守る筈の行政自身が法を無視するから民衆が怒ったのである。

釜ヶ崎の労働者をここまで怒らしたのは行政とそれを許している国民自身だということができてきよう。不正に対する一般民衆の無気力とあきらめ。しかし不正に対する真の怒りを労働者と青少年は持っていた。それを行政は警察の力をもって押え込んでしまった。民主主義は又もや後退してしまつたのである。

今年も越冬がやってきました

「越冬活動などいろいろな社会を」めざして越冬に取り組んで今年で十六回目の冬を迎える。残念ながら、今年も越冬活動をしなければならぬ。状況はいささかも変わっていないからである。労働対策しかりである。元氣な労働者には、好景気で仕事が保障されている。しかし、高齢者と言え、その限りではない。医者が「軽作業可」と診断書を出しても、高齢者むけの特別の仕事などない。その結果、重労働につき、身体をこわし、失業して、いわゆる働ける労働者に限り「軽作業可」の診断でも、福祉事務所も生活保護を出さない。経済大国と言っても、いわゆる働ける労働者に限りわずかの保障があるだけだ。あとは、自分で責任をもてというのが今日の日本社会である。ただ一度の就任に一二三億円支出しても、毎年一〇〇人をくだらない釜ヶ崎の行状死者には、いっこうに減らすことさえ出来ない。釜ヶ崎の労働者には、人権はないとも言うのだから。まさにこれに対する抗議が①・②にはじまる労働者の行動であつた。

五年間の要求運動の結果、大阪市は重い腰をあげ、今夏民間社会福祉施設（三徳寮）の中に、二十床のケア・センターを開設した。しかし、これとて常に満員で野宿を強いられる労働者の要求を満しているとはとうてい言えない。しかし、状況に絶望することなく、今冬も地域の労働組合をはじめ労働者と力を合せて、この現実を変えるため越冬

今年も越冬夜回りをします。

今年10月2日から5日間に渡って続けられた、「釜ヶ崎の暴動」はなぜおきたのでしょうか。戦後日本の高度成長の中で土木建築現場で、重要な役割を荷なつて、日雇労働者を釜ヶ崎では、行政が人間扱いしていない現実があり、天王寺公園有料化も彼等を締出す目的であり、福祉事務所では口汚く罵られ、やっと入院すれば、釜病棟で一般患者と差別され、職安では仕事を世話せず、手配師（暴力団）まかせ、中でも特にひどいのが警察です。

例えば、道で酔って寝ていると足で蹴り、「じゃまだからどけ」路上強盗にあい警察に行くと、「飲んで盗られるお前が悪い」と言われます。そして、労働者の人権を無視して24時間監視続ける16台のテレビカメラを設置している西成警察の巡查長が、管内の暴力団から、1000万円以上の賄賂を取って、賭博を見逃していたことが、常日頃蓄積していた彼等の、うっ憤に火をつける導火線となつたのです。日雇労働者の人格、人権を大切にすることが、問題解決の唯一の道なのですが、行政は反対に、この暴動を理由に取締りを一層強めて行くでしょう。夜回りを通して、彼等との連帯を深めてゆくため、皆様の参加を望んでおります。

越冬活動日程(予定)

- 前半 12月25日～1月10日 25日越冬突入集会、31日～3日第17回越冬ゼミ
- 後半 1月11日～2月末日

釜ヶ崎キリスト教協友会、夜回り予定表 (1月11日～2月末日)

曜日	集合場所	時間(PM)	電話番号
月	ふるさとの家	集合 9:00	06(641)8273
水	曙光会 *自転車で回る	集合 10:00	06(562)0086
木	旅路の里	集合 9:00	06(641)7183
金	喜望の家	集合 10:00	06(632)1310
土	こどもの里	集合 8:00	06(645)7751

人を人として！今年も協友会の活動にご支援を。

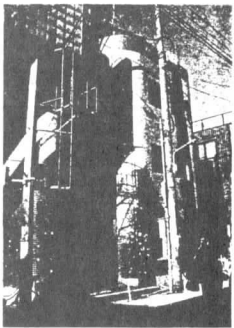
冬にたち向いたい。

活動は、最も責任を負う大阪市に対する抗議と要求をはじめ、労働者一人一人の生活と生命がこの冬も守りぬかれるような活動を展開したいと計画している。その一環として、「越冬ゼミナー」(十二月三十一日・一月三日)も準備している。釜ヶ崎の冬に直接責任をもち、労働者の人権、あるいは日本社会のあり方などについて考え、行動しようと思いたい。また協友会が直接責任をもち、後期越冬活動(二月中旬から二月末まで)では、案内(別表)のように夜まわりや医療、生活相談活動も計画している。是非、釜ヶ崎に足を運び、繁栄や海外派兵論議の裏側で何が起っているか確かめ、ともに行動していただきたい。

募金もよろしく願っています。

山谷労働者福祉会館

日本基督教団 日本提伝道所献堂式を迎える



山谷労働者福祉会館前
(日本基督教団日本提伝道所)

に労働者会館の建設計画が持ち上つてから問題が続出しましたが、困難を乗り越えての落成でした。労働者とキリスト者が手を取りあつて建設した日本最初のキリスト教伝道所であり労働者会館であります。これからは労働者の自立を願つて運営してまいります。この会館建設にはみなさまからの募金をカンパとして使用させて頂きました。(協友会通信第十四号)二百万円を五年間の約束でした。ありがとうございました。あと三年残っています。これからもよろしく願いました。

一 カンパ目標 一千七百万円 二 毛布、食糧等の物資援助

- ① 毛布、石炭、越冬期間中、沢山の毛布が必要です。
- ② 食料品、米、調味料、食用油、乾物、カンヅメ、肉、野菜、ラーメン

送り先 〒557 大阪市西成区北津守四一四一四四
曙光会気付 釜ヶ崎キリスト教協友会

'90 年度協友会活動への ご支援ありがとうございます

協友会がここ釜ヶ崎で活動を始めて、20周年になる。'90 年度も、新しい問題を抱えながら、終止符を打ちました。これも皆様方の熱いご支援に支えられて、活動できたことを改めて深く感謝致します。

今年は越冬活動中、湾岸戦争が起これ、中東の多くの人々を悲惨な状況に落とし入れました。特に難民となった、貧しい外国人出稼ぎ労働者に対する帰国輸送について、政府は自衛隊派遣問題でごたついている時、キリスト教を中心にした支援のための情報で、民間機チャーターによる輸送が可能とわかり、基金の募金が呼び掛けられ、教友会は即刻対応して応分のカンパを致しましたことを、ご報告致します。

釜ヶ崎も人手不足を反映して、賃金も上昇しましたが、反面ドヤもビル化が進み、宿泊料も騰り、豊かさは労働者の生活の、安定につながるどころか、歪みになっています。このことは、老弱者の人たちとの差を益々ひどくし、年間活動の夜まわり実施にも関わらず、

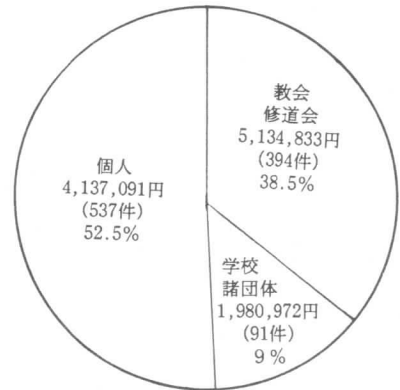
今年も12月1日から3月16日までの越冬期間中に三十三人の行路死者がでていることは、何を物語っているのでしょうか。

又、人出不足による労働力の需給は、外国人出稼労働者の進出にともない、新たな搾取と労災事故等の問題を抱え、対応も多面的になってきています。

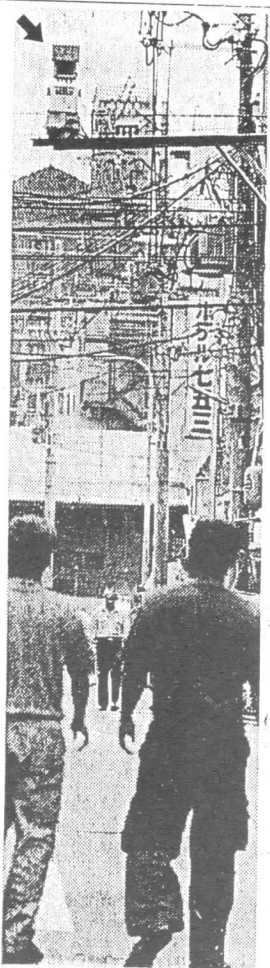
教友会の活動も20年を一くぎりに、新しい展望のもとに行動しなくてはなりません。今後共、尚一層のご協力とご支援をお願い申しあげます。
(会計 谷)

カンパ支援

1990年3月16日～1991年3月15日
総額 1,022件 ¥11,252,896



地域別	区 別	個 人		教会・修道会		学校・諸団体	
		件 数	%	件 数	%	件 数	%
大	阪	123	23.0	110	27.9	19	20.9
近	畿	102	19.0	137	34.8	31	34.0
中	国	27	5.0	40	10.1	11	12.0
四	国	15	2.8	15	3.8	3	3.3
九 州	・ 沖 縄	59	11.0	59	15.0	10	11.0
東	海	29	5.4	1	0.3	2	2.2
北 陸	・ 信 越	33	6.1			1	1.1
東	京	48	8.9	18	4.5	7	7.8
関	東	61	11.4	5	1.3	6	6.6
東	北	34	6.3	5	1.3	1	1.1
北 海	道	5	1.0	4	1.0		
海	外	1	0.2				
合 計		537	100.0%	394	100.0%	91	100.0%



電柱に取り付けられた監視用テレビカメラ(矢印)。通行人を見つめている。6日午後0時30分、大阪市西成区萩之茶屋2丁目

監視カメラは人権侵害

「あゝ住民が大阪府を訴え

の電柱や専用支柱に取り付けら

れ、映像は西成警のモニターテレビに送られている。カメラレンズの方向、角度を回響から遠隔操作で自由に操ることができ、住民らの日常生活が常時監視されている、とい

氏原清三・大阪府警防犯総務課長の話 カメラは、特定の個人、団体の監視を目的としたものではなく、犯罪防止のため、街頭を恣意に見渡すために設置しておの、人権侵害はまったくないと考えている。

日雇い労働者が多く住む大阪市西成区のおいりん地区(釜ヶ崎)周辺に、大阪府警が計十六台設置している監視用テレビカメラをめぐり、おいりん地区の住民や労働者ら十二人が六日、大阪府を相手取り、「多数の方々増加し、現在、約一、四万七千台あり、おいりん地区の地域に十六台ある。道路わき

「誤診で死亡」と 西成の病院訴え

い弟の労働者 日

大阪市西成区のおいりん地区(釜ヶ崎)で働いていた日雇い労働者(当時六〇)の弟(五七)と和歌山市在住の兄(十三日、「兄が死んだのは、運ばれた病院で誤診されたらえ、満足な治療を

受けられないまま長時間放置されたのが原因」として、西成区にある救急指定病院「大和中央病院」(南葛理事長)を相手取り、約七百六十万円の損害賠償を求める訴訟を大阪地裁に起

こした。原告側は「西成区内では年間約百人が身元不明のまま路上や簡易宿所などで死んでいくが、背景には日雇い労働者に関する医療が施されていないという現実がある。訴訟を通じて地域の医療を改善していきたい」としている。

訴えによると、死じた労働者は、去年四月二十三日夜、左胸が痛くなり救急車で大和中央病院へ運ばれた。心電図検査で異常が見つかったのにらう間胸痛の薬を与えられただけで帰された。翌二十四朝、苦しんでいたところを発見され、再び救急車でこの病院に搬送されたが、不安定狭心症が悪化して死亡した、という。原告は、「死亡した際の診察で問診、血液検査などを行って下すらう間胸痛と

病院へ運ばれた。心電図検査で異常が見つかったのにらう間胸痛の薬を与えられただけで帰された。翌二十四朝、苦しんでいたところを発見され、再び救急車でこの病院に搬送されたが、不安定狭心症が悪化して死亡した、という。原告は、「死亡した際の診察で問診、血液検査などを行って下すらう間胸痛と

れた際も約一時間四十分にはわたる必要な処置をせずに放置した」と主張、「診察に過ちがあった」としている。

病院側は「突然の提訴で意外だ。患者は、二十三日は治療後徒歩で帰宅、二十四日は診察の結果入院となり、病院としては可能な限りの治療をした。訴状を見たらえ法廷で主張をしていきたい」としている。

▲ 朝日新聞 1990. 7. 7

朝日新聞 1990. 12. 4 ▲



大阪・釜ヶ崎・90年夏

梅雨明け寸前の大阪・釜ヶ崎(あべの地区)を歩いた。関西学研都市、新空港、花博などの公共事業ラッシュで釜ヶ崎の労働事情はどのくらい近況を好調で、街もどかか活気があって明るい。しかし一方で高齢者や弱者を中心にしたアップ(失業)やアオカン(野宿)などの問題も依然として深刻化している。明と暗の分極化が著しい。釜ヶ崎90夏の現状を描いてみる。

(八木 晃(記者))

明と暗に二極分解

増える韓国人労働者、「フリーター」

釜ヶ崎を歩いて、否応なく気づかされるのは、下ヤ(簡易宿泊所)の高層化ラッシュ。以前はカコ棚方式が圧倒的に多かったが、今では個室式に変わり、外見にも美観され、夜ともなればはげはげしいほどにネオンが輝く。街の明るさは静寂と対照的。

釜ヶ崎労働者は分断されていって、もう露動にも立ち上がりはじめています。というのは、日本寄せ場学会運営委員で、在釜四年の鉄筋職人・松繁逸夫さん(57)も、露動でききほどに元気な人はよく働いて、失業者もアプレ(一日六千二百円の日雇労働者求職者給付金)を受けられるから文句をいわない、他方、アプレ賃の支給額にならなっている。月十四日以上の就労ができない弱者や高齢者は露動できるほどのエネルギーもないというわけです。この二極分解に下ヤの姿はますますあやうい。

デゾラ(日給半仙)は雑

感ぜられず、どちからどちへは静寂と対照的。

釜ヶ崎労働者は分断されていって、もう露動にも立ち上がりはじめています。というのは、日本寄せ場学会運営委員で、在釜四年の鉄筋職人・松繁逸夫さん(57)も、露動でききほどに元気な人はよく働いて、失業者もアプレ(一日六千二百円の日雇労働者求職者給付金)を受けられるから文句をいわない、他方、アプレ賃の支給額にならなっている。月十四日以上の就労ができない弱者や高齢者は露動できるほどのエネルギーもないというわけです。この二極分解に下ヤの姿はますますあやうい。



釜ヶ崎の現状

釜ヶ崎の労働風景で昔と様変わりしたのは、デゾラが上り下りを反映して、フリーター一気分の若者層が増えたこと。原色のシャツを

い。松繁さんにいわせれば、一人を強制されつつある。が多い。猪飼野(半野区)時は三人を招きこめる野宿者が「管理支配を強化して、川・桃谷地区)周辺に約二千人が集団的に居住している。釜ヶ崎だが、現在望まない日雇い労働者をアプレ(一日六千二百円)の、この間の雨続きで確実

生活保護も非正規に受けにくい。下ヤに住民票を設定して住所を固定しようとする。だからアパートに入

釜ヶ崎の労働風景で昔と様変わりしたのは、デゾラが上り下りを反映して、フリーター一気分の若者層が増えたこと。原色のシャツを

釜ヶ崎で働く人々の生活は、二万五千円、鉄筋工や人上りした職人層で一万六千円から一万八千円、仮に十四日働いて、十三日分のアプレ賃を受けると日収は約二十万円となる。しかし、高齢の人や弱者は、アプレを受けられない。労働者同盟の連合会が、たちまちアオカン生活に陥らざるをえない。

釜ヶ崎で働く人々の生活は、二万五千円、鉄筋工や人上りした職人層で一万六千円から一万八千円、仮に十四日働いて、十三日分のアプレ賃を受けると日収は約二十万円となる。しかし、高齢の人や弱者は、アプレを受けられない。労働者同盟の連合会が、たちまちアオカン生活に陥らざるをえない。

蓋ケ崎キリスト教
協会会編

『蓋ケ崎の風』

「おっちゃんたちを寝ら
れないように、公園にさく
をしてました。はらがたっ
たからそのさくをけっとは
しました」小学六年の女の
子の文章があった。これを
どう受け止めた
らいいのだろう
か。二つの見方
があると思う。
一つは行政や警
察の立場から、
こういう行為は
公共器物損壊何
とかで、こうい
う人物は破壊的
で危険で、良き
市民ではない。
他方、この女の
子が柵をけっ飛
はしたくなる心
を探るならば、
体を休め、寝床
にしている場所
を奪われて、行き場所を失
ってしまつて、今日も力な
くたはずんでいる「あのお
っちゃん」の顔が目の前に
ある。そして、たまたまや
つてしまった純真な子供

現代の福音
の入門書

の、人間愛の行為として受
け止められる。あなたほど
う受け止めるのと問われて
いる思いがある。
キリストはこの女の子の
ように社会や人をもっと単
純な眼差しで眺めているの
ではないだろうか。それは
観想の領域と言えよう。
本書は人生を誠実に生き
ようとする人々や、生きる
に福音にこだわる人々
の体験、また、純真な
子供の心の鏡に映った
感動を持ち寄った手作
りの生きた、現代人へ
の福音の入門書であ
る。
私にとっては霊性の
書でもあった。しか
も、気軽に読める。
現代への神学、宣教、
霊性、典礼それぞれの
あり方が、豊富にくみ
取れる書である。
〈中谷功二フランチ
スコ会〉(風媒社 一
五四五円)



▲ カトリック新聞 1991. 4. 28

警官やいきなり暴力

ルポ 無抵抗の少年、次々と

信じられない光景だった。
群衆による投石、放火などの
騒動が続く大阪市西成区のお
いりん地区。六日前前一時過
ぎ、地区北西隅にあたる南野
一んやとと頭突きされ、次々

新今宮駅ガード下の大通りに
面した壁の前で、首にタオル
を巻いていた労働者風の男五
人が、通りかかったらガッシ
ャッシューパン姿の少年二人
を取り囲み、いきなりけり上
げた。男たちは言った。「警
察や。石投げたやろ。手を見
せろ」。二人へのひざけり、
往復びんたは約十分間続い
た。(社会部・岡田光司、大
平誠)
二人はこわむ手のひらをを
差し出し、「投げてません」
と小声で言った瞬間、ほおを
張られた。
二人は西成区外の大阪市内
から来た、中学時代の同級生
で十九歳。テレビで騒ぎを知
り、車で見物にやってきたと
いう。
専門学校生という一人は
「ボクたちみたいに、見物に
来たことが騒ぎを大きくし
たことは反省している。で
も、警官からこんな目に遭
わされるなんて」。もう一人
の大学一回生は「警察だ」と
言うので、免許証を見せ
たら、『お前ら、なめとる
んや」と頭突きされ、次々

「お前ら新聞記者は警察が
やられていることほのかり背
きやがって。おれら命をかけ
ているんや。投石のおかげで
頭にブロック片を六回も当て
られていんや。目障りや、
向こう行っとけ」とどなられ
た。
騒動が起こった二日夜か

ら、あいらん地区で取材にあ
たっている。群衆の中に少年
の姿が目立ちはじめたのは四
日から。五日深夜は七十八割
にも見えた。投石する姿に、
「このガキら、エエかげんに
せえよ」と思った。だが、顔
のはれ上がった複数の少年を
見て「いったい今回の騒動は
何なのか」と考え込んでしま
った。
日本最大の労働者の街は降
りしきる雨の中、五日目の朝
を迎えた。ドストドという、
あの悲しい音が耳から去らな
い。

「だれのための警察や」

警官不祥事

西成 その渦中にとばく開帳

加重収賄の可能性も

情報提供と不正目くぼし

(24) 警備のスキ突き

労働者ら怒り暴発



大阪府西成警察北門（手前）内にブロックばなとを投げ糞くす。2月午後自時50分

顔こわばらばら
あんなに

大阪府西成
山崎警察署
同警察署二
た元岡警通
警備が、警
署本部警
警は、集
口ほし

190-10-3
6月

警察 疑惑

「あいらん地
めるは銀部
と、労働者
に何れ及
した。また
が地区内
西成警察
た目出
を解去
なす。」

「あいらん地
めるは銀部
と、労働者
に何れ及
した。また
が地区内
西成警察
た目出
を解去
なす。」

「あいらん地
めるは銀部
と、労働者
に何れ及
した。また
が地区内
西成警察
た目出
を解去
なす。」

「あいらん地
めるは銀部
と、労働者
に何れ及
した。また
が地区内
西成警察
た目出
を解去
なす。」

「あいらん地
めるは銀部
と、労働者
に何れ及
した。また
が地区内
西成警察
た目出
を解去
なす。」

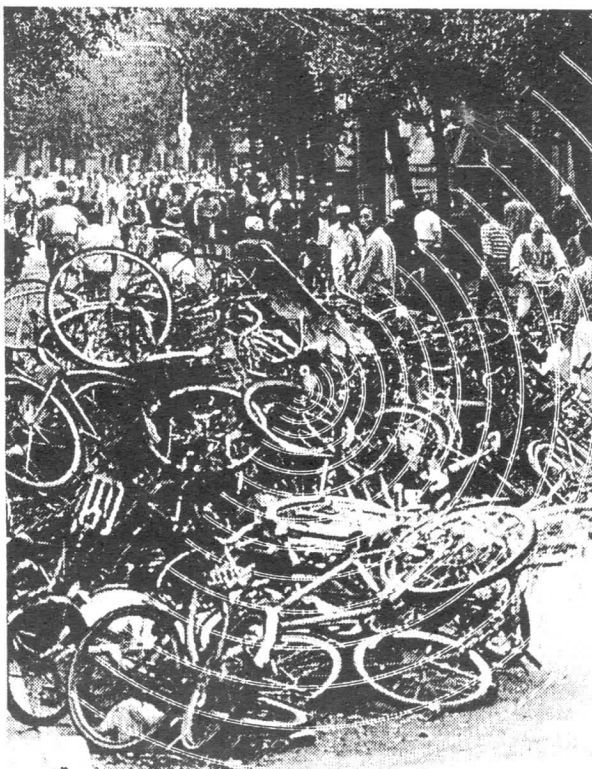
「あいらん地
めるは銀部
と、労働者
に何れ及
した。また
が地区内
西成警察
た目出
を解去
なす。」

西成・騒動一過

自動販売機100台
自転車約200台
自動車45台
数約400枚

二百日から六日間、騒動が続いた大阪市西成区のあいりん地区。釜ヶ崎一帯で、焼かれたり破られたりした物の数である。いま街は、修理に大忙しだ。壊れたままの自販機をながめ、商店主たちの表情は苦しい。その一方で、思わぬ一騒動(効果)に巻き込まれる。自販機屋はパンクの修理に大わらわで、自販機製造業者は大衆の注目を受ける。騒動一過。泣き笑いは背中合わせ。

損され壊 稼ぎ時や



道端に山積みされた自転車 = 5日、大阪市西成区萩之茶屋で

店主 売り上げパー 業者 自転車 一カ月分を修理

あいりん地区の自販機はいつでも切れない関係にある。アルコール、清涼飲料など……。労働者たちの生活に生み出す機械は、約八百四十の地区に下台を揃える。日本の標準度とさえいわれる。利用率も高く、自販機を置くリノ業者によると、一日で四百本の清涼飲料が、二百では足りぬ状態といふ。他の地域に比べ三倍近い。被害に遭った自販機(西成区

間べ)のなかには、商品や金銭をすべて奪われたものもある。西成区から北に百ほど離れたところは、食品店が先遭い、壊れた三台のたばこの自販機を新品に取り換えた。この店は連日三百間、十数人の少年グループに計八台を壊され、中身もすべて奪われた。

買取りの一台を除き、あとだけで済むが、リースでもは三五年間のリース契約。機中に入っていた手帳のたばこは三本、本体の損害は買取りの一台や数回木のシラス、刃土金やすために損もった損害額は約

三百五十万円になるという。北は、日本酒や清涼飲料の近畿地方・コーポレーション(本社・摂津市)はリースや直営のものが壊れた。修理に当たったのは、約二百台が被害に遭い、上白が全壊した。「壊した相手も特定できず、保険がきくのではない」といふ。機動隊に投げつける武器やパンク修理に投げつける武器やパンク修理に投げつける武器やパンク修理に投げつける武器や

も労働者の足として、あいりん地区には欠かせない。ふだんから、簡易宿舎の前にはずらりと並ぶ。騒動では壊れたものも含め、約二百台が壊された。山積みされた自転車から自分のものを探し、マイヤを交換してくれ」と自販機屋に駆け込む労働者もいれば、新品を買う者もいる。

地区の入り口、南海本線萩之茶屋駅近くの自販機屋は、五日から三日間、パンク修理で閉じられた。午前八時の閉店前から労働者が列を作り、従業員三人で一日百五十二台の修理をした。騒動で投げられた瓶の破りでパンクが刺さった。自販機屋の店主(男)は「三百間、一カ月分は稼がせてもらった」といふ。西成前を東西に走る歩道の敷石は、投げ使われた。五年前、景観美作を求める地元の要請で、一枚三十平方、爪ぎ約十の石が敷き詰められた。この時、二度と騒動は起こらぬとの誓約があったとされる。管理者大阪市建設局南西課は、騒動の過去八日、アスファルトで復旧させた。本街川が決まれば、一枚十日前後で建築材から購入することになる。

再入園するなら

手に烙印?



スタンプ方式で論議

市民の反対を押し切って有料化した天王寺公園で、大阪市は今月末から特殊なスタンプを利用者の手に押し、再入園時に確認する方法を導入する。食事などでいったん外へ出てもその日のうちなら無料で戻れるようにとの措置。市側は公園をより気軽に利用してもらうためと説明しているが、市民の間からは「一体の一部を汚されるようで、抵抗感がある」「江戸時代の罪人に押しした烙印(らくいん)のよう。そこまでして有料にこだわる必要があるのか」という疑問の声も出ている。

「体を券代わり」 「手軽で便利だ」

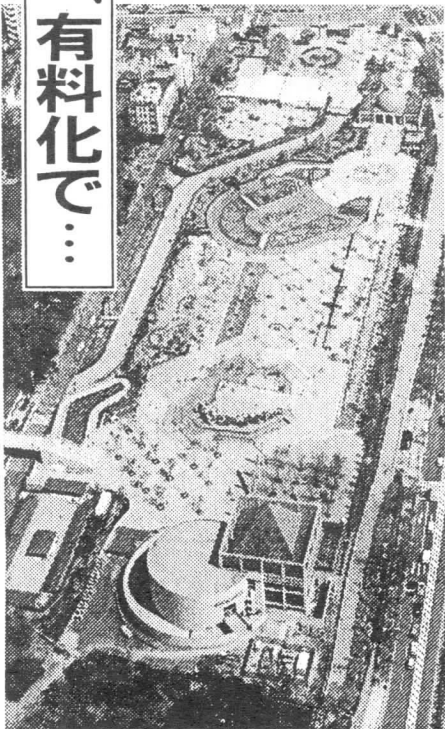
天王寺公園はもとも出入り自由だったが、八七年の天王寺博覧会後の整備をきっかけに、維持管理費がかさむことなどを理由に昨年二月、市が市民の反対を無視して有料化(百五十円)した。しかし、利用者の間から、「いったん入ると園外で食事がとれず、一日ゆくりできない」などという苦情が寄せられ、市議会でも取り上げられたことから、市は再入園の方法を検討していた。

導入するのは、米国のインクメーカーが開発した「再入場コントロール装置」。微量の蛍光塗料を含む特殊なインクを使って、ゲート窓口で再入園希望者の手の甲にスタンプを押す。利用者が再び公園に戻ってきた際、紫外線ランプでスタンプの有無をチェックする。価格は一セット約六十万円で、計約二百四十万円。

インクは無色無臭で自然に見えず、十時間ほどで自然に消滅。この間、汗や水などで落ちることはないという。スタンプ方式について、市民グループ「大阪の公園を歩く会」の会員(三〇)は「一人の体を券代わりに使うなんて理解できない。なぜこんな発想が出てくるのか」。有料化に反対してきた大阪都市環境会議の代表幹事高田昇さんは「素肌にスタンプとは、なんとも官能的なやり方だ。押される側は

気持ちのいいものではない。市民の悪い場である都市公園はレジャー施設とは違う。そこまでして有料にこだわる必要があるのだろうか。再入園の希望者がそれほど多いなら、有料化そのものを見直すべきではないか」と指摘している。

人温かさをなくする少年時代から天王寺公園に親しんできた作家黒岩重吾さんの話 論外ですよ。天王寺は庶民のまちなのに、人間的な温かみが全く感じられない発想だ。人の体を何と考えているのか。行政に対する憤りとともに情けなさを感じる。有料化そのものが間違っていた。



手にスタンプを押した人だけが再入園可となる天王寺公園
＝大阪市天王寺区で、本社へりから

天王寺公園、有料化で…